

學校單位に

空の防備

平第一、第二、第三の各小學校は来る十一、二の両日行れる防空演習に關し既報の如く今四日午後三時から第一校で兩協議會を開き過般委員に依り作成された細案に就いて種々協議したが大体學校を單位として防備の任務に當る事となり兒童に防空の講話を聞かせて注意を涵する外防空演習に關する展覽會を催しポスター等を作成せしめ兒童の家庭にそのポスターや綴方電燈カパー印刷物等を配布する由尙當日迄の豫定は左の如く決定された

(六日)午後一時から第一校に於ける防毒室作成方法見學(七日)防空演習に關する智識を附與する爲め講堂に於て二回に分け一齊講話會を開く(八日)各學級に於て詳しく防空に關する講話を行ふ(九日)兒童の避難演習(十日)町の豫行演習に参加

日立工場

採用試験

昨日平第一校で

(既報)平職業紹介所幹旋の日立製作所見考職工採用試験は昨三日午前九時から平町第一小學校に於て會社から北條綿引兩係員出張し

時から會議室に開き土地賣却の件を附議する

平水道委員會

平町水道委員會は五日午後一時から會議室に開かれる

第三區校長會

第三區平第一外十六校の校長會は既報の如く今四日午前十時から平第二校に開き近々行れる防空演習に關し種々協議した外第二學期の行事に就いて打合せた

出稼者への福音

保護組合を設置

更に指導員を町村から選定 四倉町が郡下に慰けて活動

四倉町では縣の季節の出稼者の保護と奨励の新方法に従つてこの程縣下に於ける他郡の九ヶ町村と共に出稼保護組合を設置して青少年の保護に務めることにな

大島の健兒行

少年團教育と賞習所

渡邊啓二

ハイキング(續)

記號を辿りつゝ三原山の中腹に至る。又置手紙あり「途中間者出沒す、擬装して通過すべし」と一同襟布をリツクサツクに入れ帽章を葉にて被ひ、杖をバンドにさしてカモフロラージュを進む。漸時にして指導者なる間者あらはる。頭に鉢巻をし、裸体に繩をまき、鎌をふり上げ大聲をあげて飛び出す「汝等何處へ行くか」吾等は諸國を巡る修業者なるぞ、無禮者」と体よ

り郡下に於ける唯一の新施設として注目されてゐるが更に縣ではこれが運用を活

平地方學童が

明日籠球大會

母校の名譽を擔つて

十七校の選手が競ふ

同校校堂に開催中であるが今四日これが優秀兒童二百九十名に對し賞状を授與した

既報來る十三日開催される郡下小學校兒童籠球大會の第三方面選平第一外十六校の籠球大會は愈々明日午前八時から平第一(男子)同第二(女子)の兩校庭に開催される出場校は平第一、同第二、同第三、内郡第二飯野小川、赤井第二、平窪好間尋高の九校二十チームでいづれも母校の名譽を懸けて奮戦する筈であるが男女共各決勝戦に臨む二チームが代表としての出場権

夏季課題展「平第二校の夏期課題展覽會は目下その雨水の注ぐ提に出る。置手紙に曰く「この廣場の面積及堤の水量を問ふ」と概算して決す。これ少年團教育に於ては目測即ち「感」の重視される点の應用である。次は雜木林中に關門の同志居る。腰なるナイフを調べらる。赤銅にて磨かせらる。班員等相當にこた叱らる。班員等相當にこたへた。團員はそのモット「そなへよ、つねに」の精神を忘れず準備の至れるかを試みられたのである。サン

ドスキー場を下り所長即ち爲朝公のもとに至り館なるキヤムプに歸りて一息つくこの半日のハイキング行程約六料、三時間半を費し無

を獲得するものであると因に地元三小學校の出場選手左の如し

- △第一(尋常科)鈴木滿男 大谷繁雄 藤田文朗 長谷川利夫 色川瑛 關原進 渡邊英夫 水野敏夫 稻登昇一 小園井邦男 (高等科)伊藤俊夫 鈴木三郎 吉田芳男 鈴木芳雄 篠原孝吉 遠藤正門 馬公一 田島秀則 根本健三 新妻唯男

陸上運動會の準備委員

磐女早くも決定

磐女は來る十月十一日午前八時から櫻ヶ丘グラウンドで第二十三回陸上運動會を催す事になり早くも今日これが準備委員を左の如く任命したが今年は過般の縣下大會に優秀な成績を挙げただけに今迄にない盛り澤山のプログラムに依り盛大に行ふ可く各委員共早速準備に取かゝつた

四倉市況

四倉市場の昨日取引は出廻り八百八十五貫、最高四圓三十八錢、最低三圓七十八錢、平均四圓六錢五厘、掛目三十三

尺八の名手が

なれぬ旅の商賣に

失敗して平署に檢舉さるる

朗々たる断腸の音

昨三日午後平署第二司法室から朗々たる尺八の音が流れ出して署員を感嘆させ、おたが右は東京市品川区大井鮫州町六六居住横濱高等商業学校尺八囃子鶴風こと内田建藏(三)で夏場稼ぎに向島區寺島町二丁目帝國濟生會

外交員となつて三名

の外交員と共に本郡に入り込み祖田町澁川鑛泉に宿泊したが宿料十餘圓を支拂はずそのまゝ平町七丁目熱心湯に宿泊して強壯劑の外交

販賣をしたが一寸も買れず宿泊料約四十圓を溜めて平署に舉げられたもので同人は本邦尺八界の大家川瀬竹友師の愛弟子で、例の桃色事件で有名な福田蘭堂とも交友ある斯道の名手で學校の暑中休暇で懐が淋しいところから練れない外交員に一時轉向して失敗、暫く口にせぬ尺八を是非吹かせて呉れと嘆願した結果漸く望を達した譯で吹奏後懇々説諭され一札を入れて釋放された

刀を突付け

良民を脅す

飲みたい一念で

不良團が暴行

内郷方面の炭礦地帯を中心最近兇器を所持する不良團が跋扈し更に過般の舊盆の雜沓する人込中で暴行を働き良民を震ひ上らせてゐるのを探知した平署では秘かに内偵中であつたが昨三日夜同村大字宮無職阿部貞吉(一)遠藤(二)山崎香

(一)佐藤勝次(二)渡邊直次(三)何れも假名の五名を押し出した多數の日本刀、匕首と共に引致取調べた結果、舊盆中同村内某方で「酒を呑ませろ」と暴行を働いた外數回に亘る脅迫の事實を自白、他にも窃盜の餘罪他數ある見込で追求中

二学期の級長決定

既報去年の二学期の級長決定は、選擧を行つた平第二校の二学期に於ける各學年の正副級長は今四日左の如く決定(三ノ一)高田玉惠 矢野千賀(三ノ二)渡邊マサ子 加藤衛子(三ノ三)吉田照子 石田カツ子(四ノ一)鈴木悦子 高橋正子(四ノ二)小野喜恵子 山本隆子(四ノ三)中村里子 鈴木清子(五ノ一)高木良子 會田美智子(五ノ二)中野静子 中根満子(五ノ三)木村イミ 菅本よし子(六ノ一)五十嵐澄子 本條正子(六ノ二)早川和枝 矢田部富子(六ノ三)桑原貞子 佐川行(高一ノ一)江尻キヨ子 天野文子(高二)高木ひで子 長谷川啓子(高三)高田愛子 友部のぶ(高二の二)片島アサ子 高橋文子(同二)丸山マサ 吉田文子(同三)小菅正子 國玉幸子

鹿島組頭更迭 鹿島村消防組頭佐藤米次氏はこの程家事上の都合で辭任し

明日のラジオ 五時 今晩は商東の風 曇後 明日は南の風景 一時晴

今晩の部 後六、〇〇「お話象狩り」 中田清一 後六、二五講演「東北地方の鐵道交通」 平山仙鐵局長 後七、三〇趣味講話「町學者の話」笹川臨風 後八、〇〇但詠 太田ト

女給連まんまご失敗

まかれたつけ馬

待たされた揚句逃げられる

三日正午頃四倉警察署へ青くなつた二名の女給風の女が飛び込んだので署員が調べて見ると同人等は平町南町カフエーパラダイス方女給(谷イ)外一名で顔馴染の自稱四倉町警署セメント會社員今野利男と共に今野が同日店で飲食した代金十餘圓を受取りに付馬となつて四倉町に來た處同町仲町料理業幸月の前で一寸待つて呉れとまんまと籠拔されたもの同署では無銭飲食の常習者と睨み犯人殿探中

公判開廷を前に

辯償の請求訴訟

既報簡易保険料百餘圓を横領業務上横領罪として起訴された永戸村大字下永井當時平町材木町三六葉谷定行(三)の公判は明五日午前九時から平區で野木判事係り氏家檢事立會の下に開廷されるがこれに先立ち今日四日仙臺通信局から辨償未済金四十八圓の請求私訴を提起された

江名焼竹輪組合 江名町燒竹輪組合は十六日第一回總會を開き役員定款、事業計畫を決定、尙出資額は一口三十圓二百五十口の商工省に認可申請をする

汗の結晶を 山田村小學校 高等科生一同は今夏の休みを利用して校長以下職員指導で夏私塾の飼育を行つてゐたが協力して懸命につとめた結果成績頗るよく買却

裁判 一 東 既報小名濱町印刷業孫安夫

明日の部 前六、三〇速成獨演講 登張信一郎 前七、〇〇朝の修養「萬葉集に現はれた日本精神」久松潜一 前八、〇〇家庭講座「家庭で出来る肉類の加工に就て」鎌田平 後八、〇〇五 輕音楽 宗イ スオルケスタライピカ 上ケイ子 後九、三〇時報 ニュー ス 明日の話題 氣象通報 番組豫告

平職案紹介所報告

- △出前持 十八才迄 拾五圓
- △小店員 十九才迄 給十圓 尋卒以上
- △雜役 二十才迄 給十圓 △トラック助手 二十才前後 給面談
- ◇ 職を求め方
- △見習看護婦 二十二才
- △見習保母 實科女卒 二十二才
- △給仕 十八才 高卒
- △漁夫 二十七才 尋卒
- △同 二十五才 尋一修
- △店員 十八才 高卒

繞る瓦解の謎

(著上秋上) 悟道軒圓玉(作) 尾至陽(書)



二一四 死体片付け

次郎長はお花より頼まれて、清水港に漂ひ居る幕府の運送船威臨丸で戦死した人々の死骸を收容することにした。

次郎長の子分はたづねて来たお花と云ふ女は江戸の淺草奥山にさくらやと云ふ水茶屋を出してゐた女で一枚繪にも出たもの、それが土井伊織と名乗り男となつて戦をしたものだといひつてびつくりして

○『親分、お花は巴御前のやうな女でございますね』
次『腕も出来てゐるやうだな、体の様子やまた眼の配りで腕の出来てゐることも判る、冗談をすると當身で殺されるぞ』

○『物騒な女があるものだ時に親分、港に浮いてゐる死人をかたづけませうか』
次『引上げた上は始末をせずばなるめえ』

○『しかし港には官軍の船番所がありますぜ』
次『それも承知だ』

○『夜になつてそつと船を出して死骸を引揚させう』
次『馬鹿なことを云ふな、しので行つて死骸を引揚たことが官軍に知れるとすよ』

答めをうける、悪いと思へばこそ船番所の眼をかすめてしたことであらうとかう一本突つ込まれては答へに困る、日のあるうちに出發して行つて始末をする』



○『へー、船番所から苦情が出ませう』
次『それは承知の上だ、お花さん、お主はこゝにゐるが宜い、鬼のやうな奴の中にお主のやうな綺麗な女がゐると役人の目につくから俺の歸るまでこゝに遊んでゐなせえ』

○『何卒親分お願ひ申しませう』

次『俺が萬事引き上げた』
と次郎長は子分二人をつれて港に出て来ると三々伍々沙にもまれて死体が漂つてゐる、それを見て次郎長が

○『それが出来ねえだよ、船を出して死骸をかたづけると船番所から官軍が出來て叱り付けます』
次『何んで叱る』
○『朝敵の死骸だて手をつけてはならねえ、沖へつん流して魚の餌食にしるとかう云ふだね』
次『何を云つたところでそんなことを氣にかけるな、俺が承知だ、船を出して引きあげてしまへ、答められればこれは長五郎の指圖によつていたしましたと云へばお前がたの迷惑にはなるめえ』

○『そんなことをしてい、かね』
次『い、から云ふんだ、どし、片付てしまへ』
それではとこれから漁師はすぐ船を出してこれにたゞよふ死体十四五を引きあげて松原へ持つて行つてうめてしまつた、すると官軍がこれを知つて、何者が死体を引きあげたかと調べる

と涙を浮かべた、その時それに居たものが
○『モシ親分、この人たちはかりがなさげねえわけではねえ、わし共もなさげねえ、何故と云ふにこゝに水死人がこんな浮いてゐては稼業をすることが出来ねえだ』
次『出来ねえ』とはなからう、この死骸を引き上げ

花柳病科外科 木村外科醫院

平町六丁目橋際 電話三〇九番

時計 高橋時計店

平町二丁目 小役員募集委細面談。

ほね つぎ

大河内接骨院

平町才樋小路

電五八八

内科一般

難波 睦

看護婦募集

平町大町新川端 電話五〇二

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話 六八番

醫學士 吉田久雄

お醤油は ヤマフル

福島縣平町

醤油味噌 たひら正宗 鯉節食料品

醸造元

鹽屋

電話 二七〇番

明治生命磐城代理店 山崎與三郎